



立正佼成会ニューヨーク教会

320 East 39th Street, New York, NY 10016 TEL: (212) 867-5677

E-mail address: koseiny@aol.com, Website : <http://rk-ny.org>



ニュースレター2022年 5月号

皆様こんにちは、いかがお過ごしでしょうか。

まだ肌寒い日もありますが、桜も満開となり春の訪れを実感する今日この頃です。

COVID 19の蔓延も3年目に入り未だ収束には至りません。最近ではオミクロン株の新種タイプに代わりつつあるともいわれますが、引き続き注意が必要です。

こうした中であって、さらにウクライナではロシアによる侵攻を受けて一般市民を含め多くの犠牲者が出ております。世界中からの非難を浴びる中、ロシア軍による侵攻は続きこの時代にあって今なお繰り返される惨状に心が痛みます。ここで皆様と共にCOVID 19で亡くなられた方々、ウクライナで犠牲となられた尊い御霊に心よりご冥福を祈らせていただきますよう。

さて、昨年11月の挨拶文では人の心に宿る3つの毒について述べさせていただきました。

それは「貪瞋痴」という、むさぼりの心（貪欲）・怒りの心（瞋恚）・おろかさ（無智）についてですが、とりわけ怒りの心（瞋恚）は3つの中で注意しなければならないとされています。怒りによって全ての修行精進が見えなくなってしまうからです。平静な心の時は怒る心は良くないと誰しもが思いますが、ちょっとした触れる縁によってイラっとしたり、心がかき乱され暴言を吐いたり、時には暴力を振るうことにもなりかねません。

仏教ではそうした心の働きを深く探求し、何故そのように分かっているにもかかわらず突然心の奥から飛び出してきたのかについて分析しています。現在では深層心理学によって説明されていますが、表面に現れている意識とその奥にある目に見えない表面下にある深層意識による働きと説明されています。仏教でははるか昔に直感的に見抜いていたという素晴らしさがあります。

仏教では心の働きを五感と言って「眼・耳・鼻・舌・身」に分けます。その五感でとらえたものをまとめて意識と言っています。これが私たちのとらえる「五感」、「意識」ですが表面上の意識、意志とは別の奥底に「マナ識」という存在があります。それは「自分にこだわるのはやめよう」と思ってもなぜかこだわってしまったり、意志とは関係なく好き嫌いをしてしまう働きで、無意識のうちに「私」にこだわってしまう心（自分というものがあると思ってこだわる心）です。

さらにその奥には「アーラヤ識」と言って自分の生命にこだわっている心の世界があります。

自分の意識とは関係なく心臓が動き続け、免疫反応が起きると言った生命を維持してゆく力、生命にこだわってゆく力、働きがあります。

これらの自分にこだわる心の深い部分「マナ識」と生命そのものにこだわる心の深い部分「アーラヤ識」が意識下の奥に無意識として宿っているわけです。

こうした心の分析を理解した上で私たちはどう自身の心を正して行けば良いかをやさしく教えていただいているのが「基本信行」の大切さだと私は思います。朝夕のご供養、ご命日の参拝、教義の学習、法座、手取りなど毎日の生活の中でくりかえし実践する「行」を仏教徒としての習慣を身に着けることにより自然と心の奥深い無意識の世界をも浄化してゆくことになります。そして人様の幸せを念ずる心、ものごとへの感謝の心、間違いに気づいたときのお詫びの心（懺悔）などを通じ人の心は清められてゆきます。「まず人様」という心で菩薩行を歩むことの大切さが込められています。

ですから、この心の奥深くにある意識をトレーニング（修行）によって少しずつ仏智の心に変えて行くことが出来るわけで「法華経」に示される通り「人は悟れる存在だ、仏になれる存在だ」という希望にあふれた仏さまのメッセージを信じ行ずることが私たちの精進ではないでしょうか。

先月は創立記念式典をシカゴ支部の皆さんが担当してくださり素晴らしい内容のプレゼンテーションがありました。今月のメモリアルデーはフォートマイヤーの皆さんが担当くださいます。サンガの皆さんの一致協力が素晴らしい成果を上げますが、心を一つにする調和の精神が何よりも勝るものだと思います。

今月も共々に元気よく精進させていただきましょう。



合掌

ニューヨーク教会長
畠山友利